

## インド 今シーズン初のマンゴーを日米に輸出

mypunepulse.com 2023年4月13日

マハラシュトラ州農産物市場委員会の事務局長であるディーパク・シンデ氏は、今シーズン最初のマンゴーの荷が4月8日に日本に向けて出荷され、別の荷が4月11日に米国向けに出荷されたと述べた。ナビムンバイ市のヴァシ地区にある蒸熱処理施設から4月8日、サフラン(ケサール)品種とバイガンパリ(バイガナパリ)品種のマンゴー合計1.1トンが日本に輸出された。(以下、米国向け輸出の記述は省略しました。)

輸出されるマンゴーの品質と安全性を確保するため、農産物市場委員会は、国際基準に則り、野菜加工センターを備えた近代的な輸出用施設と蒸熱処理施設をナビムンバイ市のヴァシ地区に設置した。これらの施設は、日本、ニュージーランド、韓国、ヨーロッパ諸国、ロシア、米国、オーストラリア、マレーシア、アルゼンチン等の輸入要件に準拠している。

日本に輸出されるマンゴーの場合、ミバエの蔓延を防止するための蒸熱処理が義務付けられている。農産物市場委員会の最先端の蒸熱処理施設はその要件に適合しており、日本は2022年のマンゴーシーズン以降、日本から検査官を派遣せずにマンゴーの輸入を許可している。果実の処理と処理結果の確認は、中央政府の植物防疫所(NPPPO)の検査官の指導の下で行われる。

農産物市場委員会のすべてのマンゴー関連施設は、マゴネット(Magonet)と呼ばれるコンピューターシステムを介して登録生産者や梱包施設と接続されており、輸入業者に対してマンゴーの品質を保証するとともに、輸出の増加を支援している。農産物市場委員会の事務局長であり、この荷に関するNPPPOの担当者であるバスカー・パティル博士は、他の職員らとともに、これらの先進国へのマンゴーの輸出を促進するために尽力してきた。

執筆者: ムルナル・ジャダブ

## 南アフリカ 今シーズンのアボカド輸出は23%増加へ

FreshPlaza 2023年4月14日

南アフリカ産の今シーズン最初のアボカドが第10週(3月上旬)にヨーロッパ市場に到着した。総輸出量は前年比23%増の8万トンと予想されている。南アフリカ・アボカド生産者協会(SAAGA)のデレク・ドンキンCEOは、「南アフリカでは新植園地からの出荷量が商業的な規模に達するため、今年の輸出量は増加すると見られる。この成長は今後しばらく続くだろう」と述べた。(以下「」は同CEOの発言)

EUと英国の市場は安定しているようで、輸出業者らは第17週(4月下旬)にペルーからの大量の入荷が始まる前に、これらの市場に出荷しようとしている。「過去3年間、価格はそれ以前のような上昇を見せていない。これは、人々の購買力が落ちているためかもしれないが、市場への果実の入荷量が多いことも原因である。輸出量が増加するので、新しい市場の開拓を推進しなければならない。近いうちに中国、インド、日本へのアクセスが獲得できることを期待している。」

南アフリカはまた、ケニア、タンザニア、ジンバブエ、モザンビークなどのアフリカ諸国との競争が激化している。一部のアボカドは南アフリカの輸出業者を通じて輸出されているものの大部分はそうではなく、ケニアはすでに中国へのアクセスを獲得している。「南アフリカは、引き続き高品質のアボカドを生産し、これらの国々と競争できるよう信頼性を維持する必要がある。」

南アフリカは、港湾での遅延や実施中の計画停電など、多くの課題に直面している。多くの生産者や梱包業者は、電気を確保するための代替手段に投資する必要がある。「これは生産者にとって大きな課題であり、困難な時期に大きな投資であるが、1つの利点は、我々がより持続可能な生産者になれることである。過去には電気は比較的安価であったが、最近の大幅な価格上昇により、ソーラーパネルなどの代替品への投資がかなり魅力的になっている。」

執筆者: ニコラ・マクレガー